▼特集　スポーツする女性たち

世界にはばたく女性アスリート

近年、さまざまな競技での女性アスリートの活躍が目立ち、また女性がスポーツを楽しむ機会が増えてきました。ここに至るまでには、女性たちがスポーツの世界にも数多く存在した差別や困難な壁に立ち向かい、克服してきた歴史があります。

ここでは、オリンピック・パラリンピックを例にとり、その軌跡を振り返ります。

▼スポーツの歴史を築いた日本の女性たち

2019年のNHK大河ドラマ『いだてん』は、日本人が初めてオリンピックに出場した明治の終わりから、東京オリンピックを開催した1964年までのおよそ50年の歴史をテーマとした物語。その中で女性スポーツのさきがけが描かれました。

日本人がオリンピックに初めて参加したのは、男性が1912年のストックホルム大会、そして女性が1928年のアムステルダム大会。この時、陸上競技の人見絹枝選手が、800メートル走で銀メダルを獲得しました。日本人選手43人のうち唯一の女性による快挙です。

1936年ベルリン大会では、水泳200メートル平泳ぎの前畑秀子選手が日本人女性初の金メダルを獲得しました。指導するコーチもいなかったため、練習はすべて自己流で連日長距離を泳ぐという、現在では考えられないような過酷な環境でした。

1940年の東京大会は戦争の影響で幻に終わりましたが、1964年アジア初のオリンピックが東京で開催され、女子バレーボールで〝東洋の魔女〟と呼ばれた日本チームが金メダルを獲得し、女性スポーツの社会的地位を高めました。

1992年バルセロナ大会から出場した柔道の田村亮子選手は、結婚・出産後も連続出場し活躍しました。（図1を参照）

▼女性アスリートの躍進

夏季オリンピック・パラリンピックの参加選手に占める女性選手の割合の変遷を見てみます。（図2・3を参照）

女性が選手として初めてオリンピックに参加できるようになったのは、1900年のパリ大会。参加した女性選手は22人（2・2%）、女子種目が採用された競技はテニスとゴルフの2種目のみでした。長らく男性のみで構成されてきたIOC（国際オリンピック委員会）によって「女性らしい」とみなされた競技が、オリンピックの女子種目として認められていたのです。

そのような夏季オリンピックの女性選手比率が、2016年リオ大会では45・6%、2020年東京大会では48・8%と過去最高になる見込みです。

パラリンピックは、1948年に開かれた障がいのある人によるスポーツ競技大会が原点で、1964年東京大会で幅広く世界的になりました。夏季パラリンピックの女性選手比率は、近年3～4割程度で推移しています。

冬季オリンピックについても女性選手比率は増加傾向にあり、2018年平昌大会では、42・5%と過去最高になりました。一方、冬季パラリンピックの女性選手比率は、2割程度にとどまっています。

▼さらなる飛躍をめざして

こうした女性アスリートの活躍のためには、アスリートを取り巻く環境整備も大切です。ここでは、スポーツ庁で進められている「女性スポーツ指導者の活動促進」と「スポーツ団体における女性役員の育成」について紹介します。

女性アスリートの育成・支援にあたっては、指導者の育成も重要です。女性指導者は男性に比べて、出産・育児等、ライフイベントなどによってキャリアが断絶してしまうケースが多く見られます。そこで、女性指導者のライフスタイルに沿った多様な研修プログラムが開発されました。

また、女性が各競技の意思決定に関わる意味で、スポーツ団体の女性役員育成も課題です。日本のスポーツ119団体の女性役員割合の平均は10・7%。（2017年8月現在）他の先進国では、ノルウェーが37・4%と高い割合です。日本でも2020年までに30%に引き上げるために、研修プログラムの開発や女性役員同士のネットワーク構築支援などの取組が進められています。

女性差別やさまざまな壁を乗り越えてきた歴史の上に、現在は「女性とスポーツ」の隆盛期ともいえますが、まだまだ課題は残っています。

図1　夏季オリンピックと女性選手の活躍

開催年	開催地	日本人選手のメダル獲得数		選手の活躍・出来事
		女	男	
1896	アテネ	—	—	男性のみ参加
1900	パリ	—	—	女性初参加（テニス・ゴルフのみ）
1928	アムステルダム	1	4	日本人女性が初参加 陸上競技の人見絹枝選手が日本人女性初のメダル
1936	ベルリン	1	19	水泳競技の前畑秀子選手が日本人女性初の金メダル
1964	東京	2	27	女子バレーボールで日本が金メダル「東洋の魔女」と呼ばれた
1992	バルセロナ	9	13	女子柔道が正式種目に 田村亮子選手が５大会連続メダル
1996	アトランタ	7	7	女子サッカーが正式種目に
2000	シドニー	13	5	女子重量挙げが正式種目に
2004	アテネ	17	20	女子レスリングが正式種目に
2012	ロンドン	17	21	全競技で女子種目開催 参加したすべての国・地域で女性選手を派遣

IOC ホームページ・JOC ホームページより作成

日本人女性初のオリンピックメダリスト

人見絹枝（1907-1931）

「日本女性は人前で太ももをさらすべきではない」と女性がスポーツをするなどもってのほかという時代に、偏見と戦いながら、日本女性の存在を世界に示しました。競技のかたわら新聞記者としても活躍し、海外遠征の経験や見聞をもとに記事を書き、各国の女性スポーツ事情を日本に紹介しました。

図2・3　女性参加可能競技数と女性選手比率(世界)

図2　夏季オリンピック

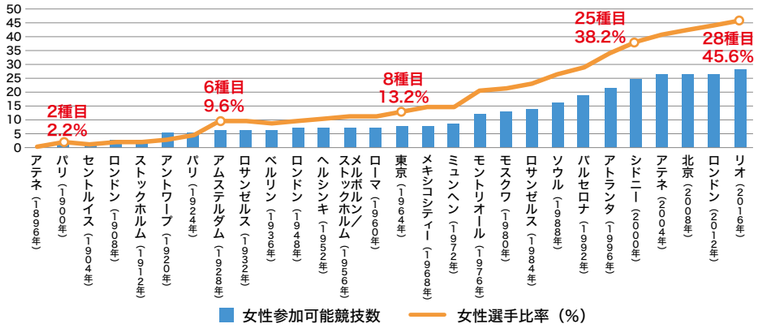
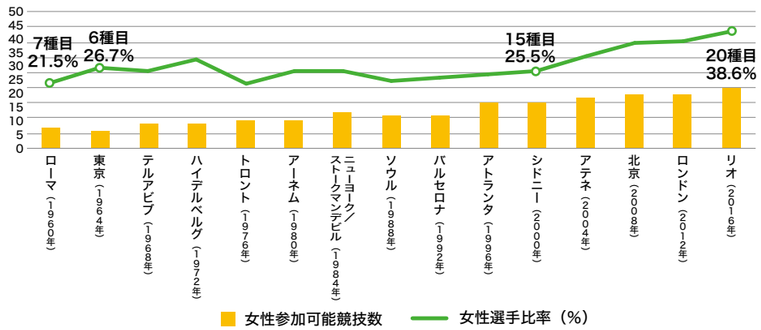


図3　夏季パラリンピック



平成30年度男女共同参画白書（内閣府）より作成